

第1回 福知山鉄道館ポップランドのあり方検討委員会
議事概要

1 日 時 平成30年7月4日(水)午後3時00分～午後4時30分

2 場 所 市民交流プラザふくちやま 4階 会議室4-1

3 参加者

委 員	足立和義委員（福知山鉄道館ポップランド運営委員会 館長） 足立政人委員（福知山商店街連盟 会長） 井上敬規委員（プラスソーシャルインベストメント株式会社 取締役） 榎原傑委員（元京都北都信用金庫 常務理事） 杉岡秀紀委員（福知山公立大学 准教授） 吉見美晴委員（京都府行政書士会 常任理事） 赤井貴恵委員（市民公募） 本多洋子委員（市民公募）
事務局 （福知山市）	大西担当課長、渡邊係長、谷主事、伊庭主事

4 会議概要

次 第	内 容
開会挨拶	大西担当課長
委員紹介	各委員より自己紹介。
情報提供	【資料1～3】により説明。
協 議	互選により杉岡秀紀委員が委員長に選出。 委員長より、第1回検討委員会では、施設内容や場所、資金調達等についての議論に入る前に、そもそも設置する意義があるのかを議論することを提案。⇒承認 議論の結果、設置の意義について確認ができたが、漫然と移転先を検討するのではなく、財政状況等を踏まえて、観光、子育て支援、生涯教育などの分野のソフトと絡めて検討していくことも併せて確認された。 次回以降の会議では主体や施設内容等について協議を行う。 （主な意見） ■財政的にも厳しいのが現状である。漫然と移転先を検討するのではなく、総合的に検討していく。 ■主体や施設内容、運営方法、資金調達等については、設置意義や目的などが確認された後の各論であるため、まず1回目の本日は、そもそ

	も意義はあるのかや、こういった目的を持たせるべきかという方向性を確認したい。 ■鉄道のまちのシンボルとして中心市街地の活性化を目的に設置された。福知山市が商都として栄えたという歴史や文化を守り伝えることは必要。 ■まちの個性が失われかねない危機でもある。 ■中心市街地活性化という目的のもとで設置されたものの、この間で商店街が7つから4つに減っているという事実は、ちゃんと受け止めて考えなければいけない。 ■「〇〇のまち」がたくさんある。鉄道のまちというのがどういう位置づけのスローガンなのか確認する必要がある。 ■休館については、建物の老朽化が主要因であり、入館者の減少や採算性が低いということが要因ではないものの、そうした点についても財政状況、財政収支比率を踏まえると検討する必要がある。 ■子どもとして、親として、祖父母として、人生3回楽しめるポップランドというキャッチフレーズも使える。 ■市民公募委員への応募数が少なく、市民に本当に愛されている施設なのかということに疑問を感じてしまった。 ■福知山市は出生率がとても高いまちであり、子育てしやすいまちを謳っているものの、子育て世代の居場所が少ない。特に0～2歳の子とその親が安心して過ごし、つながることができる場所が重要。ポップランドもそうした層をターゲットにしてはどうか。 ■雨が降っているときに子どもを連れて行く場所がないので、ポップランドにはよく連れていっていた。
そ の 他	次回検討委員会日程を、平成30年8月10日（金）午後2時30分～午後4時00分に決定。